

平成22年 6月14日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19310162

研究課題名 (和文) 北東アジアの社会的公正：フェア・ガバナンスの探求

研究課題名 (英文) Social Justice in Northeast Asia: in the Search for Fair Governance

研究代表者

MERVIO Mika (メルヴィオ ミカ)

吉備国際大学・国際環境経営学部・教授

研究者番号：00320440

研究成果の概要 (和文)：本研究では、社会的公正に関する理論研究を深め、学際的なアプローチから北東アジア (日本、韓国、北朝鮮、中国、モンゴルおよび極東アジア) の平和的・持続的発展に影響する社会リスクについて多角的に考察した。安全保障の概念を軍事・国防に限定せず、環境や人権との関連から包括的に捉え、経済社会活動の多層性と越境性を解明し、北東アジアの多様な社会的リスクに的確に対応しうる市民社会の構築に向けてフェア・ガバナンスのありようを論考した。

研究成果の概要 (英文)：This research has enhanced the understanding on theoretical frameworks of social justice and demonstrated the usefulness of multifaceted analysis on social risks and the benefits of interdisciplinary approaches in analysing peace and sustainable development in Northeast Asia. Northeast Asia refers to the region including Japan, South Korea, North Korea, China, Mongolia, and Far Eastern Russia. In this research much attention is paid to environmental and human rights issues and this research has delivered a comprehensive interpretations on the concept of security in broader meaning than in conventional meaning of military and defense security and connected it with the regional circumstances. By exploring the complexity and transnational features of socioeconomic activities of peoples in this region, alternatives and opportunities have been pointed out for building civil societies that would be able to properly cope with a variety of social risks.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2009年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
年度			
総計	8,900,000	2,670,000	11,570,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：社会的公正、北東アジア、ガバナンス、リスク社会

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、「北東アジアのリスク・レジーム

(The Risk Regimes in Northeast Asia)」(企画調査2004年、基盤研究(B)、2005～2007

年、研究代表者 MERVIO Mika) の研究成果を主な出発点としている。「リスク・レジーム」研究プロジェクトでは、欧米のリスク社会論についての批判的検討をもとに、不安定性、不確実性、境界の喪失を指すリスク・レジームの視座から、北東アジア地域（北東アジアとは、日本、韓国、北朝鮮、中国、モンゴルおよび極東アジアからなる地域を指す）の市民社会でのリスク認知・理解の程度に顕著なばらつきを生じさせる政治・経済社会・文化の多層な構造的要因の解明に取り組んだ。「リスク・レジーム」研究は、北東アジアの平和と安定および持続的発展がアジアのみならず世界の国際政治・経済に多大な影響を及ぼすにもかかわらず、この地域では市民社会のリスクについての社会認識や政策・制度対応に大きな相違があることを明らかにした。

(2)本研究は、上述の「リスク・レジーム」プロジェクトをさらに深化・展開させ、リスク社会の生成との関連で北東アジアでの社会的公正の定着に対する阻害要因（社会的公正あるいは社会的排除の問題群）とこれらの相互作用の分析に焦点を絞っている。北東アジア地域の経済・社会発展および政治文化の多様性を精査しつつ、国際関係、経済、社会、文化の構造的・制度的な特徴を把握し、同地域における社会的公正の意義とその実現の原動力としてのフェア・ガバナンスの選択肢を探求するために、本研究を開始した。

2. 研究の目的

(1)本研究は、学際的なアプローチから社会的公正に関する理論研究を深め、北東アジアの持続的発展にとっての社会的公正の意義を考察し、社会的公正を推進するためのフェア・ガバナンスの課題と可能性を考察することを目的とする。

(2)ガバナンスは、グローバル化が進展する現代世界において市民社会と国家・行政政府の関係の再構築の可能性を論考する上で核心となる概念である。本研究では、経済社会の多層性と越境的な変容の相互作用に注目し、国際社会全体にとっても不安定要因になりがちな北東アジアの多様な社会的リスクを制御しつつ、自由市場経済とも可能な限り調和的でありうる社会的公正のためのフェア・ガバナンスの選択肢を論考する。

3. 研究の方法

(1)本研究は社会科学を中心として国際関係論、国際政治学、環境・公共政策学、福祉社会学、経済社会学、文化人類学を専門とする研究者たちの協同による学際的なプロジェクトである。主要概念である社会的公正とガ

バナンスについて、研究者各自の専門領域のメリットと限界についての方法的な知見を共有するように努めた。

(2)リスク研究での研究成果を本研究に建設的に反映させるために、「安全保障」概念について、伝統的な国際政治学のように軍事・国防に限定するのではなく、むしろ、環境・人権・社会開発の諸側面から包括的に検討した。

(3)社会的公正についての理論研究として文献研究を行い、また、社会的公正の阻害要因の分析のために北東アジア地域での国家間関係、環境、人権（暴力や虐待問題を含む）、健康リスク、移民といった具体的な課題について研究者たちがそれぞれ事例研究（フィールド調査を含む）に取り組み、研究結果を論文や研究発表としてまとめた。

4. 研究成果

(1)社会的公正のためのガバナンスは、政治経済での意思決定や合意形成の透明度、市民参画と市民社会の成熟度と密接に関連している。本研究の到達点の一つは、意思決定、政策形成および政策評価における民意の位置付けが、民主主義の形骸化の予防と克服の可能性に大きく影響するという点である。

(2)一般に欧米の政治・社会科学の理論研究では、自由市場・資本主義、民主主義、国家行政は、社会的公正の確保と推進にとって望ましいガバナンスと市民の福利にとって最善の手段・基盤とされてきた。しかし、日本を含め北東アジアではこの見解は共有されていない。本研究を通じて、北東アジアを一つの社会空間としてとらえ、欧米モデルのリスク社会論の限界を試すことで、市民社会の成熟の道筋の複雑さが確認された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

MERVIO Mika, Japanese environmental history: narratives of sustainability, Journal of the Institute of International Sociology (吉備国際大学国際社会学研究所紀要)、査読無、No. 18、2010、83-117

高橋 睦子、Re-identitying vulnerability in the digital age: the search for a safer life in a contemporary risk society, Journal of

the Institute of International Sociology (吉備国際大学国際社会学研究所紀要)、査読無、No. 18、2010、119-137

高橋 睦子、The intimate risk as challenge to welfare state – precarious family and human relationships in Japanese risk society、Journal of Asian Public Policy、査読有、Vol. 2、No. 3、2009、314-329

林 裕明、Social Impact of the Global Economic Crisis、The Journal of Comparative Economic Studies、査読有、Vol. 5、2009、46-60

MERVIO Mika、Domestic violence: political and ethical analysis of power relationships、Journal of the Institute of International Sociology (吉備国際大学国際社会学研究所紀要)、査読無、Vol. 17、2009、13-38

高橋 睦子、親密性と暴力 – インターセクショナルリティ概念への序説、福祉おかやま (日本ソーシャルワーカー協会岡山支部機関誌)、査読有、第 26 号、2009、11-20

林 裕明、ロシアの労働者の労働態度とモチベーション、北東アジア研究 (島根県立大学北東アジア研究センター紀要)、査読有、第 16 号、2008、121-139

北尾 邦伸、こころ通わせるアプリヴォアゼな森づくり、森林組合、査読無、No. 451、2008、8-10

林 裕明、Uniqueness of Russian Middle Class and Its Future、The Journal of Comparative Economic Studies、査読有、Vol. 3、2007、29-45

[学会発表] (計 13 件)

MERVIO Mika、Research Panel: Environmental history and social justice: the case of Japan、The First World Congress of Environmental History (コペンハーゲン)、2009年8月7日

北尾 邦伸、森への自省的回帰、第11回いのちの科学フォーラム (京都市)、2008年12月13日

高橋 睦子、Ethics for anti-violence social policy: Controversies over family norms and gender justice in Japan、International

Symposium: Risk and Social Policy in Changing Asian Societies (香港市城大学)、2008年12月4日

高橋 睦子、Interpersonal violence and the social justice – making sense of the intersectionality in East Asia、The 5th International Conference of East Asian Social Policy Research Network (国立台湾大学)、2008年11月3日

北尾 邦伸、原点が存在する-地域再生をデザインするにあたって、環境ビジネス・アグリビジネスフォーラム (江別セラミックアートセンター)、2008年8月23日

MERVIO Mika、Social justice and the issue of environmental awareness in Northeast Asia: theory and practice、OCIS (Oceanic Conference on International Studies, 太平洋国際研究学会) (クィーンズランド大学、オーストラリア)、2008年7月2日

北尾 邦伸、森林・環境問題について、第39回食とみどり、水を守る全国集会-生命のふるさと「琵琶湖」から (大津市)、2007年12月7日

MERVIO Mika、Water and risk society: water management and historical understanding of water in Japan、第2回アジア水環境パートナーシップ国際フォーラム (別府市)、2007年12月3-4日

VOSSE Wilhelm、Heightened threat perception and the future of Japan's anti-militarism、Symposium: Security and insecurity – New challenges for Japan in the beginning of the 21st century (Japan-German Center, Berlin, Germany)、2007年11月23-25日

高橋 睦子、The intimate risk as challenge to the welfare state、The 4th International Conference of East Asian Social Policy Studies Network (東京大学)、2007年10月20-21日

MERVIO Mika、Environmental risk and Japanese foreign policy、International Symposium: Mediating Risk in Japan – the state, market and societal matrix (シェフフィールド大学、英国)、2007年7月13-14日

高橋 睦子、Welfare and risk in Japan、

International Symposium: Mediating Risk in Japan – the state, market and societal matrix (シェッフフィールド大学, 英国)、2007年7月13-14日

高橋 睦子、Risks and green welfare state: Japanese and Korean alternatives、The 11th Asian Studies Conference Japan (明治学院大学)、2007年6月24日

〔図書〕(計8件)

高橋 睦子、他、Ashgate、Risk and Public Policy in East Asia、2010、200

MERVIO Mika、他、Routledge、Environmental Change and Foreign Policy: Theory and Practice、2009、256

北尾 邦伸、日本林業調査会、森林社会デザイン学序説 第3版(増補版)、2009、387

北尾 邦伸、他、新曜社、コモンズ論の挑戦: 新たな資源管理を求めて、2008、222

北尾 邦伸、日本林業調査会、森林社会デザイン学序説 第2版、2007、355

MERVIO Mika、他、United States Institute of Peace Press、The Environmental Dimension of Asian Security. Conflict and Cooperation over Energy, Resources, and Pollution、2007、377

○訳書

ランディ・バンクロフト著(高橋 睦子、他、監訳)、明石書店、DV 虐待 加害者の実体を知る、2008、451

デービッド・レーン著(林 裕明、他、監訳)、明石書店、国家社会主義の興亡、2007、517

6. 研究組織

(1)研究代表者

MERVIO Mika (メルヴィオ ミカ)
吉備国際大学・国際環境経営学部・教授
研究者番号: 00320440

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

北尾 邦伸 (KITAO KUNINOBU)
京都学園大学・バイオ環境学部・教授

高橋 睦子 (TAKAHASHI MUTSUKO)
吉備国際大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 50320437

DAVIS Scott (デイヴィス スコット)
宮崎国際大学・国際教養学部・教授
研究者番号: 90320449

林 裕明 (HAYASHI HIROAKI)
島根県立大学・総合政策学部・准教授
研究者番号: 30336903

VOSSE William (フォッセ ウィリアム)
国際基督教大学・国際教養学部・准教授